

介護施設における介護事故予防に関するアンケート調査結果

青森県看護協会医療・看護安全委員会で、医療・介護における事故発生時の対応について現状を把握し、施設において適切な対応ができるようフローチャート等を作成する目的に、県内の特別養護老人ホーム及び老人保健施設を対象に「介護施設における介護事故予防に関するアンケート調査」を行った。

I 調査方法

1. 調査期間は令和4年4月、調査内容は①アンケート回答者の属性 ②医療安全管理体制 ③研修会の現状と今後の課題について等、調査は無記名自記式質問調査とした。

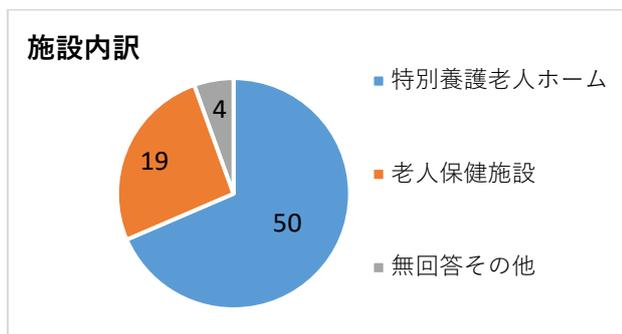
II. 結果

アンケート実施施設：73施設/92施設中(回答率79.3%)

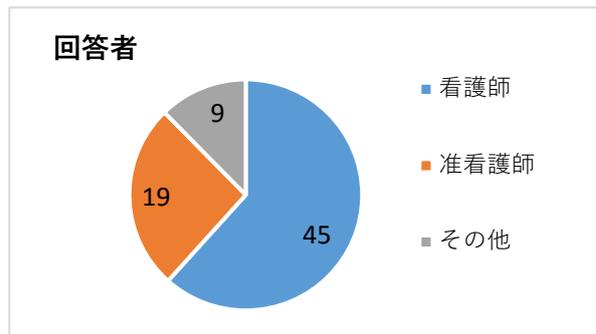
1. 施設及び職員について

アンケートの施設内訳は、特別養護老人ホームが50施設、老人保健施設19施設、その他4施設であった(図1)。回答者は、看護師が45名、准看護師19名、無回答・その他が9名(図2)、職位は、看護部門内管理者9名、看護師長24名、スタッフ29名であった。施設内での看護職員数は、5人未満が35施設、5～9人が25施設、10人以上は13施設であった。

【図1】



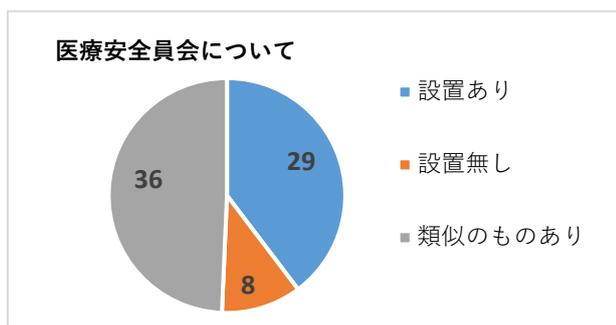
【図2】



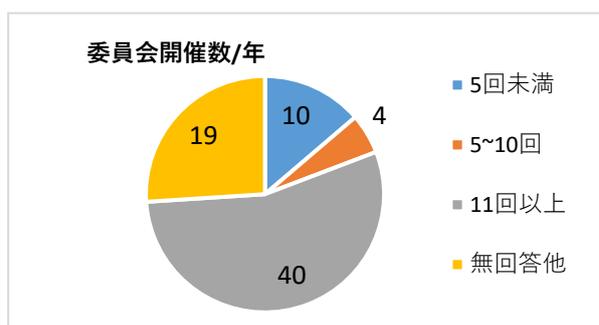
2. 医療安全管理体制

医療安全委員会が設置されている施設は65施設で、委員会の名称はさまざまであった。8施設は設置されていなかった(図3)。委員会の開催は、年11回以上が40施設で、5回未満が10施設、5～10回が4施設であった(図4)。

【図3】

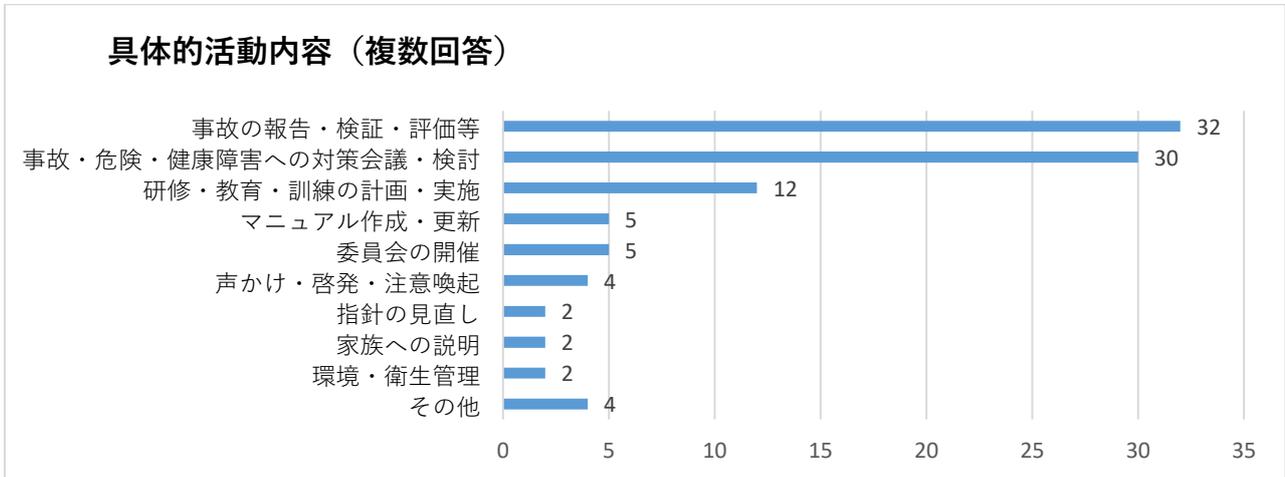


【図4】



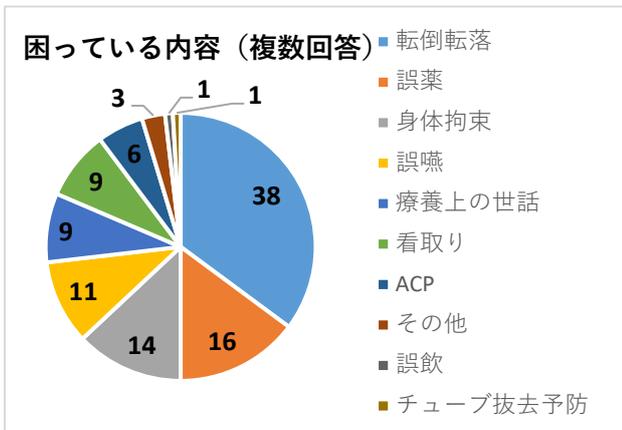
委員会活動の具体的内容は、インシデント事例の報告・検証・評価等が 32 件、事故・危険・健康障害への対策や会議・検討が 30 件であった。その他、研修・教育・訓練の計画・実施が 12 件、その他、マニュアル作成・指針見直し、患者家族への声かけ・説明・啓発・注意喚起、環境・衛生管理などが行われていた（図 5）。

【図 5】

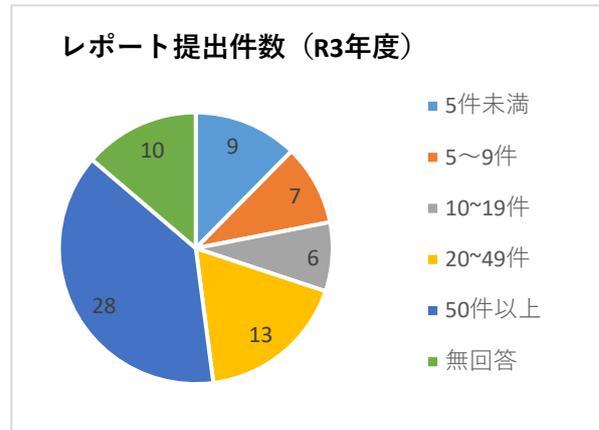


安全対策について困っていることや悩んでいる内容は、①転倒転落 38 件、②誤薬・内服 16 件、③身体拘束 14 件、④誤嚥・誤飲 12 件、⑤療養上の世話 9 件、看取り 9 件、⑦ACP 6 件、⑧その他（内出血・外傷）3 件、⑨チューブの抜去予防などであった（図 6）。昨年度のレポート提出件数は、50 件以上が 28 施設、10～40 件が 19 施設、10 件未満が 16 件であった（図 7）。

【図 6】



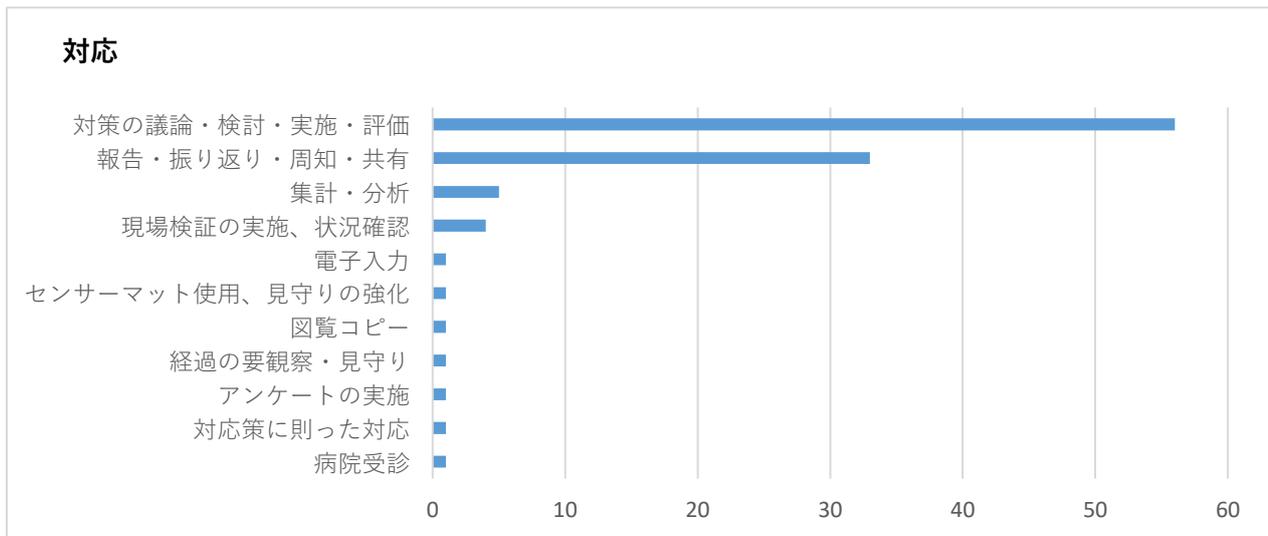
【図 7】



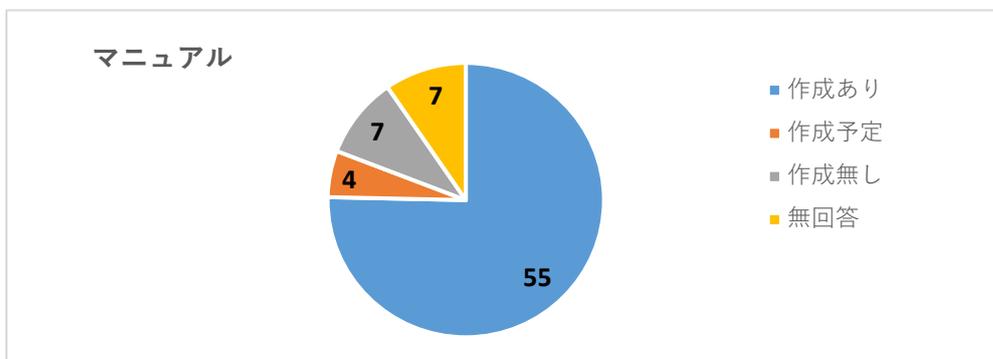
レポート作成後は、対策の検討・実施・評価が 56 施設、報告・振り返り・共有が 33 施設で行われていた。集計・分析が 5 施設、現場検証・状況確認が 4 施設であった。その他にアンケートの実施などがあった（図 8）。

介護事故予防マニュアルは、55 施設で作成されており、4 施設は作成予定、7 施設は作成していなかった。（図 9）

【図 8】



【図 9】



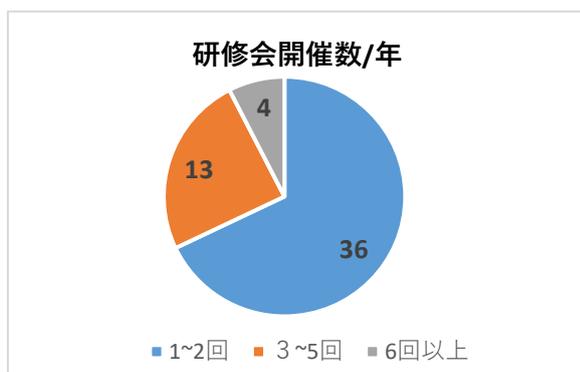
3. 施設内での医療安全研修について

医療安全研修は 53 施設が行っていた。研修の回数は、1～2 回/年が 36 施設で一番多く、3～5 回/年が 13 施設、6 回以上/年が 4 施設であった（図 10）。

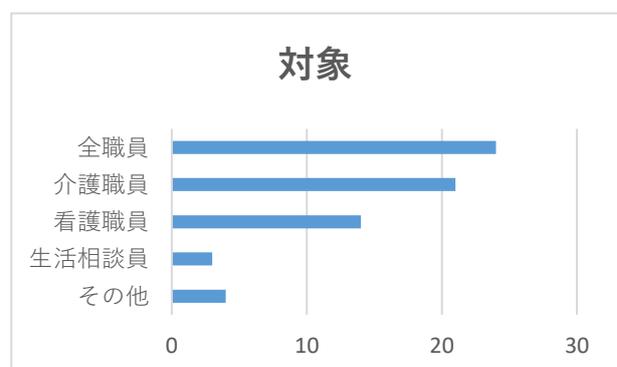
研修対象は、全職員が 24 施設、介護職 21 施設、看護職 21 施設、生活相談員 3 施設と職種別に行われている施設もあった。（図 11）。

内容は、医療事故防止対策、リスクマネジメント関連はじめ、前述にあった、困っていることや悩んでいることの内容が取り上げられていた。

【図 10】



【図 11】



4. 今後受講したい研修について

個人対象としては、安全管理やリスクマネジメントに関するものが21件で、前述にあった、困っていることや悩んでいることの内容の他に、少数意見として、スキンケアや褥瘡予防、事故発生時の対応、高齢者虐待、ケース記録、急変時対応、介護職とのコミュニケーションなどがあげられている。

施設全体の研修としては、個人対象の他に、危険予知トレーニング、コロナ感染対策、介護事故の適切な対応と予防法、他施設の実例・参考例、コミュニケーション、医薬品安全、認知症対応、介護施設における安全対策担当者養成研修などがあげられている。

5. 意見・要望

意見・要望として、医療安全管理者の訪問・指導・研修が5件、医療安全の必要性・考え方の研修3件、看護職と介護職が良好に共同で働く施設の好事例を聞く機会が欲しいという意見が1件あった。

Ⅲ. まとめと今後の課題

介護施設の安全対策の状況についてアンケート調査を行った。

73施設中、89%の施設では医療安全に関する委員会があり、活動が行われていた。また、72.6%の施設では研修会が行われていたが、医療安全対策において、病院施設同様に多岐にわたって困っている状況が明らかとなった。

アンケート調査を踏まえて、昨年度医療・看護安全委員会で作成した「患者確認に関する方針・手順」を対策として活用できる「誤薬・内服」に焦点をあてて、委員会活動を実施していく。与薬に関するマニュアル等を作成し、看護師・介護士が連携して、誤薬を防止し、患者へ安全な与薬ができるような取り組み（確認行為を含む）を検討していきたい。